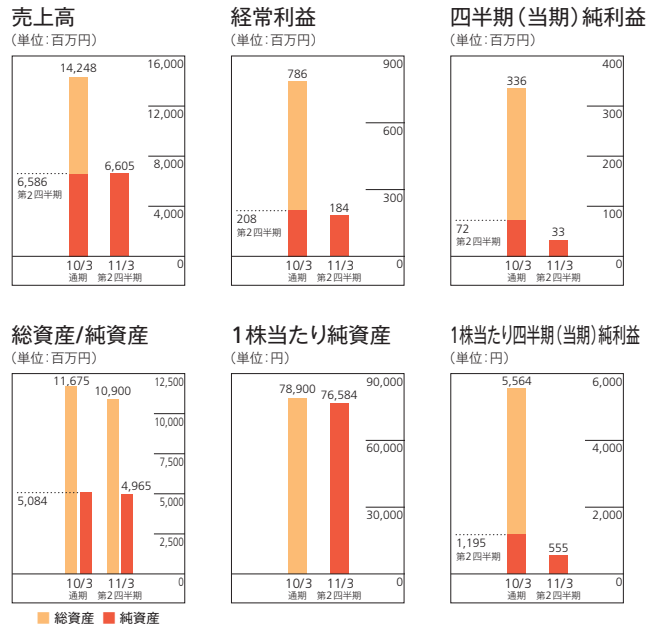


業績ハイライト

トピックス



当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期比0.3%増の66億5百万円、売上総利益は前年同四半期比3.1%増の22億17百万円となりました。販売費及び一般管理費は、グループの人員増に伴う人件費等の増加のため、前年同四半期比4.1%増の20億39百万円となりました。この結果、営業利益は前年同四半期比7.2%減の1億78百万円となりました。

経常利益は、前年同四半期比11.2%減の1億84百万円となりました。この結果、四半期純利益は前年同四半期比53.5%減の33百万円となりました。

流動資産は、前年度末から10.3%減の77億36百万円となりました。固定資産は、自社パッケージ製品の開発等によるその他無形固定資産の増加により前年度末から3.6%増の31億64百万円となりました。以上により、総資産は前年度末から6.6%減の109億円となりました。

流動負債は、前年度末から11.8%減の51億16百万円となりました。固定負債は、退職給付引当金の増加により前年度末から4.0%増の8億18百万円となりました。以上により、負債合計は、前年度末から9.9%減の59億34百万円となりました。

また、純資産は、前年度末から2.4%減の49億65百万円となりました。これにより自己資本比率は前年度末の40.8%から42.4%となりました。

日経IRフェア2010 STOCKWORLDに出展

2010年9月3日(金)、4日(土)の2日間、東京ビックサイトで開催された「日経IRフェア2010」に出展いたしました。



同イベントは、2日間の総来場者数が15,000名以上となるなど個人投資家様からの注目度が高く、当社の出展ブースや会社説明会へ多くの方々にお立ち寄りいただきました。

ご来場いただいた皆様には、当社の事業内容や株主還元策などご理解いただけたのではないかと感じております。

今後も、当社をご紹介する機会を設けさせていただきたいと考えております。

ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

情報漏えい対策・データ損失防止ソリューション「RSA Data Loss Prevention」の提供開始

当社は、RSAセキュリティ社製品情報漏えい対策・データ損失防止ソリューション「RSA Data Loss Prevention (RSA DLP)」の取り扱いを開始いたしました。



企業における機密データの損失は、顧客離れ、ブランド力の低下など、大きなリスクとなっています。「RSA DLP」は、企業内ITシステム全域をカバーする情報漏えい対策ソリューションです。「RSA DLP」を導入することで、機密データの損失によるビジネスリスクを大幅に軽減するだけでなく、知的財産とブランド価値の保護など効率的なコンプライアンス環境を実現いたします。

会社概要 (2010年9月30日現在)

商号	テクマトリックス株式会社
設立	1984年8月30日
上場	2005年2月18日
資本金	12億9,812万円
従業員数	860名(連結)
所在地	〒108-8588 東京都港区高輪4丁目10番8号 京急第7ビル
TEL	03(5792)8600(代表)
FAX	03(5792)8700
ホームページ	http://www.techmatrix.co.jp/

Insight into the future

平成23年3月期 第2四半期報告書

2010.4.1 > 2010.9.30

テクマトリックス株式会社

証券コード: 3762

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日々益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第27期(2010年4月1日~2011年3月31日まで)の第2四半期が終了いたしましたので、ここに四半期報告書をお届けし、営業の概況と決算につきましてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新興国経済の拡大に牽引される形で外需に持ち直しの動きは見られるものの、円高・株安が進行したため、日本経済の先行きには不透明感が増していると言わざるを得ません。企業のIT投資においては、消極的な姿勢には顕著な改善がなく、例年受注が積み上がる9月(多くの日本企業の上半期末)もその傾向は変わりませんでした。この様な状況下、厳しい受注環境が続いています。加えて、景気後退が企業におけるコストダウン圧力を高め、IT資産のオフバランス化、即ち、クラウド型サービスの拡大という地殻変動が業界内で進行しています。

当社グループでは、当第2四半期連結累計期間においても、縮小均衡に陥らないためにも、時代の変化を先読みし、積極的に新製品の立ち上げ、新サービスの開発を行いました。具体的には、情報漏えい対策・データ損失防止ソリューションの販売開始、ネットショップ向け業務支援SaaSサービス「楽楽バックオフィス」の発表、連結子会社である沖縄クロス・ヘッド株式会社におけるフィードパス株式会社とのSaaS事業譲受に関する契約の締結などです。情報基盤事業では、次世代ファイアウォールなどクラウド時代に適合した新技術の拡販に努めており、また、アプリケーション・サービス事業では、金融分野、ソフトウェア品質保証分野での受注が好調に推移しています。

当社は、今後も、企業価値の向上を通して、株主の皆様への貢献を目指します。今後とも株主の皆様にはより一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 由利 孝

2010年12月

各事業セグメントのご紹介

情報基盤事業

独自の目利き力を活かし、北米を中心にニッチながらも高い技術力、競争力、成長力を持つ製品やサービスを見極め、単なる製品販売にとどまらない高付加価値なフルラインのサービスをお届けします。

グリーンIT、仮想化ソリューション、次世代ネットワーク、セキュリティ、ストレージ等、コスト競争力のある堅牢で可用性の高い情報基盤の構築をお手伝いします。加えて、企業向けシステム導入以降に必要な保守・運用・監視サービス等、システムのライフサイクル全てをカバーするITサービスを提供します。

アプリケーション・サービス事業

特定のアプリケーション領域における豊富な業務ノウハウの蓄積を活かし、システム開発、アプリケーション・パッケージ、クラウド(SaaS)サービス、テスト・ソリューションなどさまざまなアプリケーション・サービスを提供します。

受動的に顧客の要望に応えるのではなく、競合他社と差別化するためのITを活用した業務改善・コスト削減提案を積極的に行っています。エンドユーザとの直接的なコミュニケーションを通じて、業務分析、設計、ソフトウェア開発・構築、テスト、運用・保守のトータル・サービスを提供しています。

医療、CRM、インターネットサービス、金融、ソフトウェア品質保証の対面市場向けに付加価値の高いソリューションを提供しています。

通期業績予想 (連結)

売上高	15,500百万円
経常利益	880百万円
当期純利益	340百万円

なお、現時点において、2010年5月7日発表の業績予想から変更はありません。

セグメント別営業概況

情報基盤事業

主力の負荷分散装置の販売が頭打ちとなりましたが、次世代ファイアウォール

売上高	4,090百万円
営業利益	317百万円

製品の販売は堅調に推移し、引き合いも活発です。クラスター・ストレージ製品、アンチウィルスライセンス、スパム対策アプライアンスの販売は堅調に推移しましたが、それ以外の製品販売やインテグレーション・サービスは苦戦しました。子会社であるクロス・ヘッド株式会社ならびに沖縄クロス・ヘッド株式会社では、ネットワークインフラの保守/運用/監視などの請負業務が堅調に推移しました。エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社では、製品販売が苦戦しましたが、クロス・ヘッド株式会社との協業により、コストの低減・新規プロダクト事業の立上げに取り組んでいます。

アプリケーション・サービス事業

インターネットサービス分野では、継続取引先とのビジネスが堅調に推移しまし

売上高	2,514百万円
営業利益	△129百万円

た。子会社である株式会社カサレアルは開発事業が堅調でしたが、教育事業は景気低迷による新卒採用及び研修予算の抑制の影響を受け苦戦しました。

金融分野では、証券会社及び大手商社向けの大型案件の受注を獲得するなど、堅調に推移しました。

ソフトウェア品質保証分野では、組込みソフトウェアに関する品質向上、機能安全の必要性が浸透してきたことから、テストツール及びアーキテクチャ分析ツールの販売が好調に推移しました。

医療分野では、競合他社との価格競争が継続していますが、売上・採算面は改善しました。子会社である合同会社医知悟は、契約施設数、読影依頼件数、従量課金金額を堅調に増やしました。

CRM分野のクラウド(SaaS)サービスでは、売上をサービス期間に応じて分けて計上しています。景気低迷を受けて、初期投資を必要としない当該サービスの比率が想定以上に増加したため、売上・採算面で苦戦しました。

当第2四半期の業績

売上高	6,605百万円
経常利益	184百万円
四半期純利益	33百万円

※業績は連結累計